

令和7年度（2025年度）学校評価報告書

園名	宝塚市立宝塚幼稚園	園長名	田上 裕一
----	-----------	-----	-------

1 学校教育目標

豊かな心と健やかな体の子どもの育成

- ・ 力いっぱい遊び元気な子ども
- ・ 友達と仲良く力をあわせて遊ぶ子ども
- ・ 自ら考え生き生きと生活できる子ども

2 重点目標

- ・ 一人一人を生かす楽しい幼稚園づくり
- ・ 安全で規律ある生活づくり
- ・ 信頼される幼稚園・魅力ある幼稚園づくり
- ・ 子育て支援の推進

3 学校自己評価結果（A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善）

領域	評価の観点及び評価項目		達成状況	学校の取組状況・改善の方策
学校運営	開かれた園づくり	家庭や地域への情報発信を行う。 保護者・未就学児・地域の参観や活動等を工夫し、実施する。	B	○コドモンや HP、おむかえ広場等で子どもの様子や保育のねらいや意図を適切な時期に写真等を掲載しながら具体的に伝えている。特にドキュメンテーションの配信や園での貼り出しにより効果的に情報発信を行った。 ○保護者に、多くの活動を見ていただけるように、参観時間を増やした。 ●地域や未就園児に、オープンスクール等の行事や幼稚園の様子等の周知方法を工夫改善する必要がある。 ◎宝小コミュニティでの広報活動を行う。
	教職員の資質向上	課題意識を共有し、研修計画の下、教師間で学び合う機会を日常的に設け、研鑽に励む。	A	○宝幼研、年次研、専門研修等へ積極的に参加することができた。また、園内研においても保育や課題について共通認識のもと取り組んだ。 ○加配教員の研修にも積極的に参加できた。 ○日々の保育の中での様子を出し合いカンファレンスを通して、幼児の姿の捉え方を学ぶ機会を設けた。 ○公開保育の機会を設け、教員の実践力向上を図った。 ●職員室でのカンファレンスする時間をもう少し確保したい。 ◎研究会だけでなく、カンファレンス等も行事計画に盛り込み時間確保を図る。
教育課程	幼児期にふさわしい生活の展開	幼児理解を基盤とした指導内容や指導方法の工夫改善に努め、主体的に学ぶ力や人とつながる力を培う。	A	○教師間の意見交流を中心に、幼児一人ひとりの興味関心を探り、個々に応じた保育内容、展開を考え合うことができた。また、保育内容が幼児に合っているかの見直しを繰り返しながら進めた。 ○行事では、計画時において前例踏襲するのではなく、幼児の実態から内容を吟味し、幼児の主体性や意欲が発揮できる活動を展開することができた。 ◎次期幼稚園教育要領の改訂動向を注視しながら、共通理解を図り、個別最適な学び、協同的な学びを推進していく。

4 評価項目ごとの学校関係者評価

保護者には積極的に情報発信を行い、園の意図を伝えることができている。
地域連携では、小学校や地域の行事と連携し、来園機会を増やす企画を検討してもよいのではないかと。
宝塚小学校区以外にも広報し、入園に繋げてもらいたい。

幼児の成長を感じ、日々教師が学び合い、よりよい保育に向けて、よく頑張っていると思う。
これからも、資質向上に向け、学び合う機会を大切にしてほしい。
職員の健康管理にも配慮してほしい。

来園するたびに、子どもが夢中になって遊ぶ様子や友だちと一つになっている様子がみられ、幼児の成長が感じられた。
きめ細やかに教員が同じ動きをするなど保育内容に工夫改善が見られ、幼児の実態から構成されており、今後も保育の工夫に努めてほしい。

	異校種間、保護者、地域との連携	連携の意義や具体的内容および進め方について教師間で話し合い、計画的に実施する。	B	○近隣の保育所（園）、幼稚園、小学校との連携を継続して行っている。特に、幼小の円滑な接続にむけた授業参観、意見交流を学期毎に行っている。 ○本年度より、宝塚小学校の教員の保育参観、意見交流の機会を設け、幼児教育について共通理解を図った。 ○保護者のボランティア活動を得て、園児の自然、言語への関心を高め、保育活動の充実を図った。 ○千吉踊り、だんじりの曳航や防災訓練に参加し、地域文化や防災に関心を持つ機会としている。 ●保護者、地域連携について、教育課程の編成と関連させ、さらに充実する必要がある。 ◎小学校の教育課程について理解し、園児の円滑な接続に向け、架け橋プログラムを視野に入れた保育を行う。	小学校との教員交流、園児児童交流も計画的に行われており、連携が着実に進んでいる。今後も幼児が円滑に小学校生活を送れるように連携を推進してもらいたい。
課題教育	人権教育	幼児の特性や発達を踏まえた人権意識を育てる。 教師自身の人権感覚を磨く。	B	○友達との関わりの中で、一人ひとりの良さを認められる仲間づくりを推進した。 ○幼児間のトラブルを解決する際に、互いの気持ちを伝える機会を設け、学級にも広げることで人権意識の基礎を培うように努めた。 ○人権参観等の参観機会を設け、本園の目指す自己肯定感の涵養、多様性の理解について、保護者理解を進めた。 ●ちくちく言葉やふわふわ言葉など、幼児が生活で実践できる具体を提示する機会を設ける。 ◎人権研修等の職員間で学ぶ機会を設け、実践力の向上を図る。	幼児の思いを受け止め、学級で話し合う機会を設けるなど、問題解決に向かうことが、生活の中で自然に実践できている。言葉に着目し、取り組んでいこうとする姿勢も評価できる。
	特別支援教育	関係機関と連携を図り、一人一人の発達や課題を明確にしながら、幼児の発達に即した支援内容を工夫する。	B	○指導主事や特別支援学校コーディネーターを招聘し、発達特性についての理解を深めた。また、個別支援についての共通理解を図り、一貫した支援を行った。 ○保護者と幼児の育ちや課題を共有し、連携を図った。 ●放課後デイサービスの事業所との連携を図っているが、さらに充実する必要がある。 ◎本年度構築した関係機関との連携を継続し、特別支援教育の推進に努める。	積極艇に外部講師の指導助言を得る機会を設ける等、専門性を高め幼児理解に繋げようとする取り組みは評価できる。保護者連携のため情報提供も行っており、今後も、推進してもらいたい。
独自項目	子育て支援の推進	キッズサポーターの確保に勤め、預かり保育の充実を図る。 保護者に対し、子育て相談の充実を図る。 未就園児親子の支援を行う。	B	○キッズサポーターに多数の方に登録していただき、支援していただくことができた。 ○未就園児教室の実施、地域の子育てサークルへの場の提供により、保護者がつながる場となっている。 ○未就園児教室では、4歳の年齢幅を考慮した活動を行い、保育の工夫改善に努めた。 ●子育て相談等、市の施策の利用が少なかった。 ●預かり保育の徴収事務に不備があり、利用者にご迷惑をおかけした。 ◎預かり保育の充実に向け、引き続きキッズサポーターの確保に努める。園だよりコドモンを活用し、市の施策の周知を図る。	預かり保育の充実に向け、サポーターの確保など、職員の業務遂行が円滑に行えるように尽力してもらいたい。 預かり保育の時間帯を伸ばすなど気軽に利用できるように改善してもらいたい。 未就園児教室や地域の子育てサークルの活動が本園への入園につながるような取り組みを行ってもらいたい。

	保育環境整備	保育室や園庭等、良好な保育環境の維持改善を行う。	B	○遊びに使える自然物や季節を感じることで、できる環境となるように努めた。夏場の園庭での活動のため、テントやネットを活用して暑さ対策を行った。 ○遊びにより、保育室の環境を変化させていくなど、幼児の興味関心や意図的に気づかせたいことに合わせて再構築した。 ●一年間の活動を視野に入れ、余裕をもった環境整備を行う必要がある。 ◎教育課程、保育計画と関連付け、備品や教材の計画的購入を推進する。	園児が生き生きと充実した遊びを行えるような環境の構築や設定した環境を再構築するなど、環境整備に対する姿勢は評価できる。今後も継続して取り組んでもらいたい。
--	--------	--------------------------	---	--	---

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

保護者を対象としたアンケートを行事後のアンケート、幼稚園評価アンケートを年1回の実施やオープンスクールなど地域住民参加の行事を設定するなど、資料収集は十分である。これからも、自園の課題を捉えて充実した教育に取り組んでいくことが大切である。

6 総合的な学校関係者評価

職員が一つになって、一生懸命保育に取り組んでいることがよく分かった。いつも笑顔で温かく子どもたちを見守り、支えている。子どもたちも、行事などに参加するたび、成長していると思った。これからも、よりよい保育、幼稚園経営のため、努力してほしい。また、多くの評価項目でA評価にしてもよいのではないかと。